

株式会社キャスト

福島県白河市



生産性向上

需要獲得

担い手確保

ものづくり

サービス

ポイント

素形材企業の連携で営業力をアップ、福島の産業復興に貢献する企業

- 固有技術とITを融合することで、製品のさらなる付加価値向上を図っている
- 多様な人材の確保に積極的に取り組むとともに有能な人材の育成にも取り組んでいる
- 市内の素形材企業とグループを設立し、国内外の展示会へ出展。地域経済へ貢献している

企業基本情報

所在地	福島県白河市東上野出島字笹久保2
電話/FAX	0248-34-3971/0248-34-3973
URL	http://www.kkcast.co.jp/
代表者	代表取締役 酒井 英行
設立	1889年
資本金	3,500万円
従業員数	40人



会社概要

産業ロボット、土木・建設機械、電子部品機械、船舶エンジン部品等の casting 部品、まさに日本の製造業を支える素形材（铸造品）を製造している。これらの铸物は複雑で薄肉形状のハンドモールドイング（手作業による砂型造型プロセス）による中型の铸造品であり安定量産供給は簡単ではない。工場内は、徹底したクリーン化を図り、今までの铸造工場のイメージを一新した職場環境を実現。創業から積み重ねた固有の铸造技術にITを融合し、スマートファクトリー化に向けた挑戦を行っている。



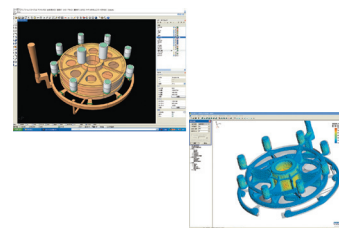
会社外観とイメージ

革新的な製品開発や創造的なサービスの提供に関する取組の内容

固有技術とITを融合して付加価値向上を図る

明治時代から129年積み重ねた固有の铸造技術に、シミュレーションソフト等のITを融合することで、铸型内のブラックボックスであった湯流れ、凝固過程による内部欠陥の部分をビジュアル的に解明し、ユーザーの製品設計段階から関わり、適切な铸造品等を提案。製品のさらなる付加価値向上を図っている。ロボットメーカーからは剛性のある薄肉・軽量化された铸造部品を求める傾向は強い。

加えて铸物がそのまま外観となるため、表面の铸肌の綺麗さも同社が求められる理由の一つである。



左は3D CADによる铸造法案設計、右は凝固解析シミュレーション

多様な人材の確保に積極的に取り組んでいる

地元高校との連携による若者人材の獲得とともに、インドネシアからの研修生を受け入れる等多様な人材の確保に積極的に取り組んでいる。また、OJT以外にも一般社団法人日本铸造協会が開催する铸造カレッジへの参加をはじめ、さらなる個々のレベルアップのための会社負担による資格取得制度や技能手当の支給等、様々な技術を習得できる仕組みを作り、有能な人材の育成にも取り組んでいる。今後は外国人研修制枠の増員およびインターンシップも検討している。



左は近年の新卒採用者、右下はインドネシア研修生

市内の素形材企業と連携し、積極的に国内外の展示会へ出展

東日本大震災で同社のみならず地域企業が被害を受けたが、中小企業等グループ施設等復旧整備補助金を活用し、事業を継続。また、補助金を申請するにあたり、市内の素形材企業と連携してグループを設立し、積極的に国内外の展示会へ出展する等成果を上げており、地域経済へ貢献している。



白河素形材ヴァレー第50回会合